

News release (日本語版仮訳)

スイス・リー・グループ、2018年の通期決算を発表—30億米ドルの大規模クレームと、5億9900万米ドルの米国会計基準変更による影響を吸収した後、4億2100万米ドルの純利益

- 大規模な自然災害と人災による損害が生じたものの、グループは純利益4億2100万米ドルを計上。スイス・リー・インスティテュートの調査では、2018年は保険業界にとって史上4番目に高い損害の年に
- 株式投資の認識に関する米国会計基準の変更による影響を除外した場合、グループの純利益は8億9400万米ドル
- 損害再保険事業は3億7000万米ドルの純利益を計上、大規模保険金支払の推定23億米ドルの影響を受ける
- 生命・医療再保険事業は好調で純利益7億6100万米ドルを計上
- コーポレート・ソリューションズは4億500万ドルの純損失を計上、予想される大規模クレームは7億米ドル
- ライフ・キャピタルの純利益は2300万米ドル。総キャッシュフローは8億1800万米ドルと極めて高い
- グループの株主資本利益率は(ROE)は1.4%、投資収益率は(ROI)は2.8%、直接利回りは2.9%と安定
- 2019年1月の契約更改で保険料ボリュームは19%増、適正料率は1%上昇
- 取締役会は1株当たり5.60スイス・フランへ増配を提起予定。スイス・リーは新規に自社株の公開買付を実施するための承認を求める
- 2019年7月1日付で、アネット・ブロンダーがグループの最高執行責任者(COO)兼グループ・エグゼクティブ・コミッティーメンバーに就任

チューリッヒ、2019年2月21日 – スイス・リーの2018年通期純利益は4億2100万米ドルとなりました。今期決算には、大規模クレームの推定30億米ドル(再々保険分を控除、税引前)が含まれており、これが損害再保険事業とコーポレート・ソリューションズの両事業部の業績に大きく影響しました。さらに、2018年1月1日に発効した米国会計基準の変更により、純利益に対して税引前で推定5億9900万米ドルの影響がありました。生命・医療再保険事業は保険取引にけん引されて堅調な業績を上げました。ライフ・キャピタルは8億1800万米ドルと極めて高い総キャッシュフローを創出しました。グループの非常に強い資本基盤、およびスイス・リーの長期的な資本創出力への信頼に基づき、取締役会は定時株主総会で5.60スイス・フランへの増配を提起する予定です。また、法律および規制上の必要な承認をすべて得ることを前提に、スイス・リーの資本管理の優先順位に従い2020年の定時株主総会前に公開買付による新規自社株買いプログラムを実施することの承認も求めます。

Media Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 7171


New York
Telephone +1 914 828 6511

Singapore
Telephone +65 6232 3302

Investor Relations,
Zurich
Telephone +41 43 285 4444

Swiss Re Ltd
Mythenquai 50/60
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999

www.swissre.com
 @SwissRe

スイス・リー・グループの最高経営責任者であるクリスチャン・ムーメンターラーは次のように述べています。「2018年は大規模な自然災害と人災が連続しました。こうした過酷な状況の中、当社は強固な財務力によってお客様を支えることができました。2018年は、業界と当社の両方にとって前年から続く厳しい年となりました。損害再保険事業は保険事故による大きな影響を受け、コーポレート・ソリューションズの業績は予想を下回りました。しかし、困難な状況にあっても、私はスイス・リーの将来について楽観的に考えています。1月の損害再保険事業の契約更改では、運営経費を横ばいに抑えつつ、成長を達成することができました。今年これから行われる契約更改においても、特に被害を受けた市場で保険料のさらなる改善が見込まれています。」

2018年に圧倒的多数を占めた自然災害と大規模な人災

2018年は上半期に比較的穏やかな時期が続いた後、下半期に多くの大規模な自然災害が発生しました。とりわけ、日本の台風「チェビー(21号)」と「チャーミー(24号)」、米国のハリケーン「フローレンス」と「マイケル」、山火事「カー」、「キャンプ」、「ウールジー」、カナダの暴風被害、オーストラリアのひょう、いくつかの人災が大きな災害となりました。クレームの累計推定額は、自然災害を起因とするものが22億米ドル、大規模な人災を起因とするものが8億米ドルに上りましたが、スイス・リーは2017年の3億3100万米ドルに対し、今年度は4億2100万米ドルの純利益を計上しました。

純利益には、以前発表され2018年1月1日に発効した、株式投資の認識と測定に関する米国会計基準の変更による推定5億9900万米ドルの税引前のマイナス影響も反映されています。米国会計基準の変更による影響を除外した場合、純利益は8億9400万米ドルとなります。

2018年のグループの株主資本利益率(ROE)は1.4%と概ね昨年と同水準でした。米国会計基準の変更の影響を除外した場合、グループROEは2.9%と見込まれます。1株当たり利益(EPS)は1.34スイス・フラン(1.37米ドル)となりましたが、前年は1.02スイス・フラン(1.03米ドル)でした。

グループ総収入保険料は、主にグループの生命・医療事業における保険料の伸びにより、4.7%増の364億米ドルとなりました。

スイス・リーの投資ポートフォリオは2018年の業績に対する大きな貢献要因となりました。重大な減損はなく、直接利回りは年間を通じて上昇し、堅調なパフォーマンスを上げました。全体として、スイス・リーの資産配分には2018年中に大きな変化はありませんでした。投資見通しの変化や市場機会の発生に備え、グループは柔軟性を維持しています。

2018年の投資収益率(ROI)は2.8%で、米国会計基準の変更によるマイナスの影響が反映されています。米国会計基準の影響を除外した場合、ROIは3.3%と見込まれます。主な要因は純投資収益で、利益の質の向上を反映して過去数年に比べ貢献度が大幅に上昇しました。2017年のROIは3.9%でしたが、低下幅のほぼ全部が株式による貢献度の低下によるもの

です。グループの無配当純投資収益は、前年の37億米ドルから2018年には41億米ドルに増加しました。グループの債券直接利回りは堅調な2.9%でした。

普通株主資本は2018年末時点において、前年度比-16.3%の279億米ドルに減少しました。この減少は主に2017年度の普通配当と自社株買いプログラムにおいて株主に支払った29億米ドル、および未実現投資利益の28億米ドル減少を反映しています。2018年度末時点での普通株1株当たりの簿価は93.09米ドルまたは91.72スイス・フラン(2017年度末時点では106.09米ドルまたは103.37スイス・フラン)でした。

スイス・リー・グループの最高財務責任者(CFO)であるジョン・デシーは次のように述べています。「保険と投資のリスクをめぐる困難な環境の中においても、当社は好調な業績を収めることができました。当社の多角的なビジネスモデルが関連損失の軽減に寄与しました。最も重要である当社の資本基盤と、長期にわたる持続的な資本創出力への信頼は引き続き非常に強く、これらが当社の魅力的な資本管理活動を支えています。」

1 株当たり 5.60 スイス・フランの増配と新規自社株買いプログラムの提起

グループの資本基盤は非常に強い状態を維持しており、グループSST比率は、SST比率の目標値である220%を大幅に上回っています。また、グループの資本創出も続いていることから、スイス・リーの取締役会は、2018年度について1株当たり配当を5.60スイス・フランに12%増額することを提起する予定です。配当金の支払は、2019年4月17日に開催される定時株主総会での承認を経て実施されます。

スイス・リーは資本管理の明確な優先順位に従い、余剰資本を株主の皆様へ還元し続ける予定です。取締役会は追加で、公開買付による自社株買いを株主総会に提起する予定で、必要な規制当局の承認を条件として2020年の定時株主総会前に実施することになります。上限10億スイス・フラン(買付価格)の第一ランシエは、2019年の株主総会の承認後間もなくして、取締役会の判断で開始することになります。上限10億スイス・フラン(買付価格)の第二ランシエは、取締役会の判断で実施され、2019年におけるグループの余剰資本基盤の状況を条件とします。条件の例としては、スイス・リーのReAssure社に対する持分が50%未満まで削減され、余剰資本が大幅に増加することが挙げられます。

損害再保険事業の業績は自然災害と人災による巨額の損失が影響。お客様のための革新的なソリューションに注力

2018年の巨大自然災害による保険金支払額は累計で20億米ドル、大規模な人災による保険金支払額は3億米ドルにのぼると推定されており、損

害再保険事業の純利益は 3 億 7000 万米ドルとなりました。ROE は 3.7% でした。

コンバインド・レシオは、複数の自然災害と人災が発生した影響を反映して 104.0%となりました。損害再保険事業は、2018 年も引き続き過年度の損害動向が良好に推移しています。

市場が引き続き厳しい環境にある中、スイス・リーは厳格な引受アプローチを守り、提供する補償に対して適正な保険料を確保しています。この結果、当年の総収入保険料は 165 億米ドルと前年と変わらぬ水準を維持しました。

2018 年を通じて、損害再保険事業部はフルサービスソリューションプロバイダーとして、またお客様に寄り添う長期的パートナーとして差別化の強化に引き続き取り組みました。この領域において、テクノロジーが重要な役割を演じます。こうしたお客様第一主義のソリューションの例のひとつは、スイス・リーが自動車メーカーと提携して開発し、世界中の元受保険会社が保険料の決定のために使用することができる自動車ごとの保険料率の算定です。この革新的な査定システムは、安全性に関連する運転支援システムの統合を考慮しています。こうした新たなアプローチは、個々の安全性に関する機能と、それが事故の頻度と重大性に及ぼす影響をすべて査定している保険会社の負担を軽減するものです。

生命・医療再保険は好調な業績と利益の成長を継続

2018 年の生命・医療再保険事業の純利益は 7 億 6100 万米ドルでした。この業績は、主にカナダとニュージーランドにおける大規模取引、アジアと EMEA(ヨーロッパ、中東、アフリカ)における堅調な業績によるもので、米国の不利な状況により部分的に相殺されています。投資業績は堅調でしたが、実現利益の減少と、株式の時価評価損失を反映して前年を下回りました。ROE は 11.1%でした。債券投資の通期の直接利回りは、若干上昇して 3.4%でした。

2018 年の総収入保険料は、すべての市場にわたる成長を反映して 9.1% 増の 145 億米ドルとなりました。これは、アジアにおける大口契約、グループ内の再々保険契約によるプラスの影響、さらに有利な為替変動によるものです。

スイス・リーは、生命・医療再保険事業において、市場をリードする引受自動化ソリューションの Magnum を通じて、お客様に真の価値を提供するためにテクノロジーを活用し続けています。Magnum は、主要な引受マニュアルである Life Guide に沿って、元受保険会社のお客様による査定と意思決定のプロセスを自動化し、データに基づく有益な洞察をお客様に提供します。Magnum は現在、26 か国・17 言語で運用され、毎年 1200 万件以上の申込を処理しており、最大 80%の申込を即座に受理しています。

コーポレート・ソリューションズの業績は自然災害と極めて重大かつ頻繁な大規模人災の影響を受けるも、元受幹事保険会社としての引受事業は堅調に成長

コーポレート・ソリューションズは、2018年に4億500万米ドルの純損失を計上しました。この業績は、大規模な人災と自然災害による大規模クレームが累計7億米ドルとなったことによる影響を大きく受けました。第4四半期の損失には、多額の人工衛星保険事故、ドイツの大規模な工場火災、ハリケーン「マイケル」や山火事「キャンプ」、「ウールジー」といった自然災害が含まれます。

2018年のROEは-19.4%、コンバインド・レシオは117.5%でした。総収入保険料¹は13.6%増の46億米ドルでした。主な要因は元受幹事保険会社としての引受事業²の成長で、米国の一般賠償責任保険ポートフォリオの積極的な削減による影響を上回りました。

保険料率と契約条件は、2018年に若干改善したものの、依然として不十分な状況です。保険料率は2018年に3%上昇しており、この流れは2019年も続く見込まれます。コーポレート・ソリューションズは、過去の業績と価格設定の不足に対する措置を継続し、収益性のさらなる改善に引き続き取り組みます。

2018年、コーポレート・ソリューションズは長期的戦略に関しても前進を続け、元受幹事保険会社としての引受能力に継続的な投資を行い、グローバル・ネットワークの範囲を120か国以上に拡大しました。

ライフ・キャピタルは極めて高い総キャッシュフローを創出、オープンブック事業は期待どおりの成長

2018年、ライフ・キャピタル事業は8億1800万米ドルと極めて高い総キャッシュフローを再び計上しました。これは、基盤となる力強い余剰資産、ReAssure社への出資について、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社(MS&AD)への初回売却分である5%持分の売却収入、及び2017年度末法定評価の完了によるものです。

2018年12月、スイス・リーとMS&ADは、ReAssure社に対してさらに3億1500万ポンドを投資することで合意しました。この取引は2019年2月20日に完了し、MS&ADのReAssure社に対する持分は合計25%となりました。

ライフ・キャピタルの純利益は、ユニットリンク保険と配当付保険の利益が英国投資市場の不振の影響を受けたにもかかわらず2300万米ドルとなりました。主な要因は実現純投資利益と好調な引受業務でした。また、リーガル

¹デリバティブ形式の保険契約の保険料も含み、再保険事業部に内部フロンティングしている分は差し引く。

²元受幹事保険会社としての取引には、お客様の免責額を超えるすぐ上の部分を補償する単独の保険会社か、共同保険会社の集団の幹事となる場合を含みます。

&ジェネラルのポートフォリオ買収の統合関連コスト、ライフ・キャピタルのオープンブック事業における継続的な投資関連の開発コストも影響しています。ROEは0.4%に低下しました。

2018年の総収入保険料は27億米ドルに増加しました。これは、オープンブック事業の成長、グループ内の再々保険契約による影響、さらに有利な為替変動によるものです。

ライフ・キャピタルは、ヨーロッパと米国の個人および団体保険事業で堅実な成長を維持する戦略を継続します。iptiQのB2B2Cデジタル保険商品は好調で、販売パートナーも増加し、これまでに19社のパートナーがサービスを開始しています。

スイス・リーは、2019年に英国におけるクローズドブック事業 ReAssure 社の新規株式公開(IPO)を行う可能性を引き続き検討しています。以前にスイス・リーが発表し、MS&AD社による ReAssure 社への追加投資で示されたとおり、クローズドブック取引を一層進めていくために第三者資本を確保することは、スイス・リーの戦略の重要な一部となっています。検討段階である ReAssure 社の IPO が確実に実行される保証はありません。また、この IPO に関する時期、条件、仕組み、IPO³に伴うスイス・リーの持分を含むすべての詳細は確実なものではありません。本件は今後、時機に応じて発表してまいります。

大規模取引に支えられ、1月の損害再保険事業の契約更改は堅調

スイス・リーは2019年1月1日付で、84億米ドルから100億米ドルに増加した保険料で更改しました。大規模な取引と中核事業の成長による恩恵を受け、保険料は19%増となりました。適正料率は1%上昇し、損失の影響を受けた財物保険事業で最も顕著な改善が見られました。スイス・リーは、年内の更改による保険料のさらなる改善を見込んでいます。

2019年7月1日付で、アネット・ブロンダーがグループの最高執行責任者(COO)兼グループ執行委員会役員に就任

6月末に退任するトーマス・ヴェロエアの後任として、2019年7月1日付でアネット・ブロンダーがグループの最高執行責任者(COO)兼グループ執行委員会役員に就任します。ブロンダーはオペレーション、コンサルティングおよび配信サービスの分野で20年以上の経験を有します。スイス・リーへの入社前まで、T-Systems International社で経営委員会の委員を務め、「モノのインターネット(IoT)」、「パブリック・クラウド」、「サイバーセキュリティ」といった成長領域の構築と経営を担っていました。それ以前は、

³ReAssure社の最終持ち株会社である Swiss Re Ltd が ReAssure 社の過半数株主でなくなった場合、Swiss Re Ltd は Swiss Re ReAssure Limited (IPO後は ReAssure グループでなくなる予定)の債券を保証する予定。

Vodafone 社と Hewlett Packard 社でグローバル経営幹部として多様な役割に従事し、デジタル・サービスの設計と配信などを担当していました。

スイス・リーは、特にテクノロジーとデジタル変革における専門知識の強化という点において、グループ執行委員会役員に強力な候補を指名できたことを喜ばしく思っております。スイス・リー会長のウォルター・B・キーホルツは次のように述べています。「アネット・ブロンダーは、戦略的な技術に対する知識と、オペレーションと配信における強力な実績を併せ持っています。スイス・リーが保険・再保険業界で起きている技術変化の最前線に立つことを支えるうえで、理想的な候補者であると言えます。当社グループのオペレーション部門を主導するだけでなく、当社のバリューチェーン全体のデジタル化を促進するために貢献してくれるでしょう。」

スイス・リーは気候変動と持続可能性に関する取り組みについて主導的な活動の継続にコミット

2018年7月、スイス・リーは低炭素経済への移行を支援するため、サーマルコールに関する方針を定めました。この方針の下でスイス・リーは、すべての事業にわたるサーマルコールに対するエクスポージャーが30%以上ある事業者への保険・再保険の提供を中止します。これは、炭素に関連したサステナビリティリスクの管理に対するスイス・リーのアプローチを研鑽し、低炭素経済への移行を支援するためのさらなる一歩です。2016年にはすでに、スイス・リーは、収入の30%以上をサーマルコールの採掘に依存している企業や、消費電力の30%以上が石炭火力発電による企業への投資を中止しました。スイス・リーは、保険・再保険業界において、投資ポートフォリオ全体に対する環境・社会・ガバナンス(ESG)ファクターの一貫した適用や、株式市場とクレジット市場におけるESGベンチマークの適用をいち早く開始した企業の1つです。こうした取り組みは、世界の強靭性を一段と高めるというスイス・リーのビジョンを直接支えるものです。

グループの最高経営責任者であるクリスチャン・ムーメンターラーは次のように述べています。「現在の行動のペースでは、気候変動による自然災害は増加する可能性が高く、社会のあらゆる側面や人々に影響を及ぼすでしょう。それが将来の世代にも波及し得ることは言うまでもありません。時間切れになる前に地球温暖化を抑えるには、『社会全体』による取り組みが必要です。私は現在の勢いに乗れば、そうした取り組みも可能であると考えています。スイス・リーでは、気候変動と持続可能性に関する取り組みについて、当社事業の資産と負債の両面にわたり、保険業界の内外にかかわらず主導的な活動を続けることを優先課題としています。」

		2017 年度	2018 年度	2018 年度 ⁴
グループ連結 (総額)⁵	総収入保険料(百万米ドル)	34 775	36 406	
	純利益(百万米ドル)	331	421	894
	株主資本利益率 (%)	1.0	1.4	2.9
	投資収益率 (%)	3.9	2.8	3.3
	直接利回り (%)	2.9	2.9	
	普通株主資本 (百万米ドル)	33 374	27 930	
損害再保険	総収入保険料(百万米ドル)	16 544	16 545	
	純利益/損失(百万米ドル)	-413	370	547
	コンバインド・レシオ(%)	111.5	104.0	
	株主資本利益率 (%)	-3.5	3.7	5.4
生命・医療再保険	総収入保険料(百万米ドル)	13 313	14 527	
	純利益 (百万米ドル)	1 092	761	829
	直接利回り (%)	3.3	3.4	
	株主資本利益率 (%)	15.3	11.1	12.1
コーポレート・ ソリューションズ	総収入保険料(百万米ドル)	4 193	4 694	
	純損失(百万米ドル)	-741	-405	-387
	コンバインド・レシオ(%)	133.4	117.5	
	株主資本利益率 (%)	-32.2	-19.4	-18.5
ライフ・キャピタル	総収入保険料(百万米ドル)	1 761	2 739	
	純利益 (百万米ドル)	161	23	17
	総キャッシュフロー (百万米ドル)	998	818	
	株主資本利益率 (%)	2.2	0.4	0.3

⁴参照用として、グループに対して2018年1月1日より発効し、遡及的に適用されていなかった金融商品の認識と測定に関する米国会計基準の最近の変更による影響を除外。

⁵プリンシパル・インベストメントを含むグループ項目も反映しています。

スイス・リーについて

スイス・リー・グループは世界のレジリエンス向上を目指し、再保険、保険、その他保険ベースのリスク移転で世界をリードする大手再保険会社です。自然災害および気候変動、また高齢化社会からサイバー犯罪に至るまで、さまざまなリスクの予想と管理を行っています。スイス・リー・グループの目標は、お客様のために新しい機会とソリューションを生み出し、社会のさらなる繁栄と発展を可能にすることです。1863年にスイスのチューリッヒで創業したスイス・リーは、世界約80拠点にて事業を展開しています。大きく3つの事業部門に分かれて運営を行い、それぞれの事業部門がグループ全体の理念に寄与する独立した戦略と目標を掲げています。